

# 事務局便り

高知県技術士会, この1年間の記録

高知県技術士会事務局

## まえがき

会報 Vol.18 の発刊から1年が過ぎた。産官学と技術士の合同セミナー, 高知県技術士会創立20周年記念式典, 村山先生の米寿を祝う会, 技術士受験セミナー, 社会資本を考えるシンポジウムなど大きなイベントが目白押しであった。

また, 第12回西日本技術士研究・業績発表年次大会, 日本技術士会中・四国支部幹事会への参加など日本技術士会や他県技術士会との交流が活発に行われ, 技術士会の大きな変革を予感させる年でもあった。

ここで, 記念すべき年となったこの1年間を振り返ってみたい。

## 産官学との合同セミナー

平成18年2月23日, 日本技術士会中四国支部の牧山支部長と植田事務局長が高知に来られた。この年の10月6日に高知で開催が決まっている日本技術士会主催による「産官学と技術士の合同セミナー」を, 高知県技術士会で企画・準備して欲しいというものであった。

高知県技術士会には日本技術士会へ入会している技術士が少ないが, 全面的に協力することを約束とした。



山本副代表幹事, 牧山支部長, 植田事務局長, 明坂幹事, 村山前会長, 右城代表幹事(H18.2.23, 葉山にて)

主催	社団法人 日本技術士会
共催	高知県技術士会
後援	国土交通省四国地方整備局 高知河川国道事務所, 高知県
日時	平成18年10月6日(金) 13:30~(開場18:00~)
場所	高知会館 高知駅前南通り(高知市下町6-42) TEL: 623-7123

開会の辞 高知河川国道事務所 牧山 昭彦  
司会 高知河川国道事務所 明坂 雅治  
実行幹事 高知河川国道事務所 山本 大二郎

基調講演 > テーマ「地震防災」  
基調講演: 講師  
パネルディスカッション・コーディネーター  
高知工科大学 社会システム工学科教授  
中田 慎介

パネリスト  
大年 邦雄 岩見 洋一 宮崎 利博 永野 正展 宮田 速雄 右城 謙

セミナーのポスター

高知県技術士会の幹事会で検討した結果, 産官学と技術士の合同セミナーのテーマは「地震防災」とし, 基調講演とパネルディスカッションのコーディネーターは高知工科大学の中田慎介教授にお願いすることにした。

パネリストとしては, 産からは(株)相愛の永野正展会長, 官からは高知河川国道事務所の岩見洋一所長と高知県土木部の宮崎利博部長, 学からは高知大学の大年邦雄教授, マスコミからは高知新聞社の宮田速雄局長にお願いし, 技術士会からは右城代表幹事がでることにした。

パネリスト予定者は多忙な方ばかりで, 一同に会して事前打ち合わせができたのは, 高知県庁の土木部長室で一度だけであった。

セミナーは, 高知会館を会場に13時30分か



日本技術士会中四国支部牧山支部長による開会の辞



参加者で満席となった高知会館の会場



日本技術士会都丸会長による挨拶



高知工科大学の中田教授による基調講演



高知県中西副知事による来賓祝辞



高知大学農学部の大年教授による意見発表

ら参加者 176 名を集め、盛大に開催された。司会  
は、高知県技術士会の山本副代表幹事が担当した。

日本技術士会中・四国支部の牧山支部長が開会  
の言葉を述べ、続いて主催者である日本技術士会  
の都丸会長が挨拶をされた。来賓祝辞は、高知県  
の橋本大二郎知事の予定であったが、都合により  
中西穂高副知事が述べられた。

中田教授による基調講演では、高知市は、木造  
家屋の占める割合が 72%と神戸の 62%よりも高い。  
地震後に津波が襲ってくるので逃げ遅れた人

が助かる確率は低いといった指摘があった。今後  
は、地盤と構造物それぞれの周期特性で建物の耐  
震性が異なることを知り、地震時に自分の周辺で  
起きる被害を具体的にイメージできる人間を増  
やしていく必要がある。家も車と同様に定期的に  
チェックするなどを提言された。

パネルディスカッションでは大年教授が、漁  
船は津波の際に漂流物として凶器に変わるが、  
震災後の被災者や物資を運ぶ唯一の輸送手段。  
漁船を津波から守る研究が必要と指摘された。  
また、行政の防災担当者と技術士が提携すれば



高知河川国道事務所の岩見所長による意見発表



相愛の永野会長による意見発表



高知県土木部の宮崎部長による意見発表



高知新聞社の宮田局長による意見発表

多種多様で高度な技術力を発揮できる。技術士は研究者でもあるという自覚をもって切磋琢磨して欲しい、という提言があった。

岩見所長は、国の役割として横の連携の重要性を指摘された。具体的には、民間ネットワークとの連携した総合的通信情報網の形成、自衛隊の災害映像の県への提供、報道機関と連携した津波情報の提供、各機関の情報を網羅したGISの構築、ヘリコプターの有効的利用等の提言をされた。

宮崎土木部長は、津波対策として「防ぐ対策」と「逃げる対策」があるが、「逃げる対策」を優先的に進めている。逃げる対策としては、自主防災組織の立ち上げ、地域津波避難計画の作成、避難路の整備、避難ビルの指定、避難訓練の実施、防災行政無線の整備を実施している。防ぐ対策としては、水門の自動化、木造住宅の耐震改修を実施している。その他の重要な問題として、液状化による地盤沈下、孤立集落の発生、校舎や橋梁の耐震化、防災拠点の整備・備

蓄の確保があると述べられた。

永野会長は、現在の高知市は1000年前に海であった場所で軟弱地盤上に形成されている。地震被害を受けやすい。将来の人口減も考え、遷都も視野にいれた県土のビジョン作りが必要と提言された。

宮田編集局長は、地震前後の報道機関の役割について話された。地震発生前には防災意識、防災知識の向上のために持続した情報提供が必要であることから、高知新聞では隔週で地震新聞を発行し、南海地震に備えるための情報を載せている。地震発生後も新聞を発行するため、無線の活用、津波浸水地区からの支局の移転、四国内の新聞社で4社協定を締結しているとの説明があった。

右城代表幹事は、想定される南海地震では擁壁や盛土の安定性に問題を生じるような変位が発生しないというニューマーク法による解析結果を紹介した。その一方で、南海地震は、加速度は大きくないものの周期が長いので今



右城代表幹事による意見発表



閉会の挨拶をする中・四国支部の作道常任幹事



右城代表幹事(左)と司会を担当する山本副代表幹事



懇親会で挨拶される日本技術士会本部の近藤理事



会場から意見発表する村山前会長

まで考えられなかった問題が起きる可能性もあると指摘した。

パネリストによる意見発表に引き続いて、ディスカッションに入ると、フロアから活発な意見が次々と飛び出した。中田教授のユーモアとウィットに富んだ司会で会場全体がなごやかなムードに包まれたからである。

会場とパネリストの間では、次のような議論があった。

技術士会と産官学が連携して学校教育に取り組むべきである。企業、地域、行政が連携して地域防災に取り組む必要がある。日本は災害国であるという認識を常に持つことが大事。今後のライフスタイルの変化も踏まえて重点的な投資が必要。

最後に、閉会の言葉として、日本技術士会中四国支部の作道忠明副支部長より災害支援委員会など日本技術士会による防災への取り組みが紹介され、今後とも防災に貢献していくとの決意表明でセミナーを閉めた。

セミナーの後は会場を別の部屋に移し、日本技術士会本部の近藤英樹理事の挨拶、続いて中田教授の乾杯の発声で懇親会が開会された。

懇親会では、中田教授をはじめパネリストの皆様に参加を得て、中・四国支部や高知県技術士会の会員の間で情報交換や意見交換がなされ、お互いの親睦を深めた。



懇親会で乾杯の音頭をとる中田高知工科大学教授



懇親会の様子



懇親会の様子



翌朝の高知新聞の記事

### 創立20周年記念式典

平成18年11月22日、15時30分よりサンライズホテルで、高知県技術士会創立20周年記念式典を行った。

司会は、山本副代表幹事が担当した。最初に右城代表幹事の挨拶があり、引き続き役員歴10年以上の貢献者への感謝状の贈呈、そして中四国支部の牧山支部長と四県技術士会の鎌田会長による来賓祝辞が行われた。

式典に続いて特別講演。講師は高知県立坂本龍馬記念館の森健志郎館長。森直樹幹事の実兄にあたる。内容は中国新疆ウイグル自治区のウルムチでの体験談。

写真を収録したCD-Rを持参されていたが、傷が付いて使用不可であった。それで前の壁に中国の地図を貼って、それだけで1時間の講演をされた。間の取り方、話の構成と展開は見事。これまでに、こんなに分かり易くて面白い講演を聞いた記憶がない。

講演を聴いた誰もが、森健志郎館長の話術に驚いていた。



記念式典の司会をされる山本副代表幹事



式典で挨拶をする右城代表幹事



高知県技術士会創立 20 周年記念式典への参加者全員による記念撮影



役員歴 10 年以上の小川修幹事に感謝状を贈呈



話術抜群の森健志郎氏による特別講演



中四国支部牧山会長の来賓祝辞



懇親会の司会をされる橋口幹事



四国技術士会鎌田会長の来賓祝辞



村山前会長による乾杯の音頭



乾杯を発声して拍手



四県技術士会のメンバーも懇親会に参加して歓談



高知県技術士会会員による歓談風景



村山保先生ご夫妻



花束を贈呈する建設短大の廣田副校長と須賀事務員

### 村山保顧問の米寿の祝賀会

高知県技術士会の初代会長で、現在は顧問の村山保先生が、平成 18 年 10 月 17 日に数え年 88 歳を迎えられた。

高知県技術士会幹事、高知県橋梁会理事、高知県建設短期大学の先生が発起人(代表・右城猛)となり、「村山保先生の米寿を祝う会」を、2月3日に約 80 名の出席者を集めて公立学校共済組合高知会館で盛大に開催した。

村山先生は現在も、株式会社宮崎測量設計コンサルタントで技術指導に当たる一方で、

高知県建設短期大学の現役校長として土木教育にご尽力されている。

毎週水曜日には学生を 10 分早く登校させ、校長訓話をされており、その話を廣田教頭が簡潔にまとめられていたので、冊子にして皆様に配布させていただいた。「土木技術者である前に、立派な人間でなければならない」という先生の教育哲学がよく表されている。



村山保夫妻を技術士会会員が囲んで記念撮影

#### 技術士受験セミナー

平成 19 年 2 月 22 日 ,国土交通省土佐国道工  
事事務所一階の会議室を借りて ,国土交通省と  
建設コンサルタント会社の技術者約 80 名を対  
象に技術士受験セミナーを開催した。

15 時より土佐国道事務所の松井保幸所長の  
挨拶で始まり ,高知県技術士会の右城猛代表幹  
事の挨拶があり ,続いて小川修幹事による技術  
士試験制度に関する説明 ,佐藤祥介会員と矢野  
史明会員による体験談発表が行われ , 16 時 30  
分にセミナーを終えた。



右城代表幹事の挨拶 ,小川幹事による講義



佐藤会員(左)と矢野会員による体験談発表



土佐国道事務所の松井所長の挨拶

#### 出前授業

平成 19 年 5 月 16 日 (水) ,高知工業高校土  
木科 3 年生の小栗太一君と河野祐輝君の二人を  
対象に ,「課題研究」の学習指導を行った。

指導内容は「擁壁が変状する原因についての  
研究」。右城代表幹事自身の人生経験を交えな  
がらパワーポイントで ,研究のねらいと進め方  
を 13 時から 80 分間にわたって説明した。





高知工業高校への出前授業

平成 19 年度春の定例総会

平成 19 年度の春の総会は、5 月 25 日にサンライズホテルで行われた。参加者は 40 人であった。

14 時幹事会、15 時 30 分より定例総会、16 時からの特別講演は「国際医学・医療協力あれこれ - 20 数年の海外での体験談を中心に -」のテーマで、講師は高知大学医学部教授の橋口義久医学博士。本会の橋口幹事の実兄である。

1977 年に国際協力機構(Jica)の医療協力専門家として中米グアテマラ共和国に飛び出して以来、南米のエクアドル、アルゼンチン、パラグアイ、最近ではパキスタンやバングラデシュなどでマラリアなどの寄生虫病の研究と対策に取り組んでおられる。そうした発展途上国の医学・医療事情、そこで生活する人々の風俗、習慣についてパワーポイントで説明して頂いた。

17 時 30 分、会場を別室に移し、村山保顧問の乾杯の音頭で懇親会がひらかれた。



橋口義久医学博士による講演



村山顧問による乾杯の音頭で懇親会



橋口義久博士を囲んで懇親会



橋口博士と歓談される上森会員(左) 山本副代表幹事による中締め挨拶



橋口兄弟を囲んで山本副代表幹事と右城代表幹事

社会資本を考えるシンポジウム

平成 19 年 6 月 29 日 (金), 高知市本町 5 丁目にある高知会館で, 次世代に築き残す社会資本を考えるためのシンポジウムを開催した。

最初に, 四国地方整備局土佐国道事務の松井保幸所長に「道づくり・地域づくり」と題する基調講演をしていただいた。

引き続き, 山本克彦副代表幹事のコーディネーターでパネルディスカッションが行われた。パネリストは, 高知工業高校土木科 3 年生の小栗太一君, 河野祐輝君, 高井繁明君, 橋原町保険福祉支援センター長の西村みずえ様, 高知新聞編集局長の宮田速雄氏, 高知県土木部道路課長の久保博道氏, それに松井保幸氏の 6 名であった。

工業高校生の河野祐輝君による意見発表は, 新鮮であったと好評を博し, 翌朝の高知新聞の記事として取り上げられた。

会場は高知工業高校土木科の生徒 116 名を含め 340 名の参加者で埋め尽くされた。



会場は 340 名の参加者で超満員



基調講演をされる土佐国道事務所の松井所長



日時 平成 19 年 6 月 29 日 (金) 13 時 45 分 ~ 16 時  
 場所 高知会館 (高知市本町 5 丁目 9-1) TEL: 022-7122  
 定員 240 人 [入場無料]  
 主催 高知県技術士会, 社団法人日本技術士会中・四国支部

1. あいさつ 石塚 猛 (高知建設士会代表幹事)
2. 基調講演 「道づくり・地域づくり」 松井 保幸 (土佐国道地方整備局土佐国道事務所長)
3. パネルディスカッション 「子供に残そう, 元気な高知を」  
 コーディネーター 山本 克彦 (高知建設士会副代表幹事)  
 パネリスト 西村 みずえ (橋原町保険福祉支援センター長)  
 小栗 太一 (高知工業高校土木科 3 年生)  
 河野 祐輝 (高知工業高校土木科 3 年生)  
 高井 繁明 (高知建設士会)  
 宮田 速雄 (高知新聞編集局長)  
 久保 博道 (高知県土木部道路課長)  
 松井 保幸 (土佐国道事務所長)

シンポジウムのポスター



高知工業高校の河野祐輝君による意見発表



左より山本氏, 久保氏, 松井氏



左より宮田氏、西村氏、小栗君、河野君、高井君

用紙を配布するなどして、回答された 220 枚のアンケート用紙を回収した。

回収した用紙は、7月6日の8時30分に土佐国道事務所を訪問し、松井所長に直接手渡した。

アンケート回答者数の集計結果は、高知県は6,096で北海道の13,505に次いで全国第2位であった。ちなみに東京都は1,456である。道路整備に関する高知県の関心度は、全国的に見ても群を抜いて高いことが明らかになった。



6月30日の高知新聞朝刊

右城代表幹事の社長就任を祝う会

当会の代表幹事である右城猛氏が6月28日に株式会社第一コンサルタンツの代表取締役社長に就任された。

そこで、当会の山本克彦副代表幹事が発起人代表となり、「右城猛氏の社長就任を祝う会」を8月4日(土)17時より高知会館二階の白鳳の間で開催した。参加者は61名であった。



発起人代表の挨拶をされる山本克彦副代表幹事

道路整備の中期計画に関するアンケート

国土交通省では、平成19年度内の策定を目途に進めている道路整備の中期的計画案に、国民の意見を広く反映させるため、7月31日を期限にアンケート調査を実施していた。

高知県技術士会は、この調査に全面的に協力するため、6月29日のシンポジウムでアンケート



松井所長にアンケート用紙を手渡す右城代表幹事



お礼の挨拶をされる右城代表幹事



左より祝辞を述べられる村山保顧問, 宮田隆弘会員, 佐藤祥介会員



祝賀会の会場



スナック・カナカナを貸し切り状態で二次会



乾杯の音頭をとる上森千秋会員

右城氏は昭和 61 年に高知県技術士会の設立に奮闘され,書記という立場で本会の発展に多大な貢献をされてきた。そして,平成 14 年からは代表幹事としてご尽力いただいている。

山本克彦副代表幹事による発起人代表の挨拶に続いて,初代会長の村山保顧問,右城氏の高知工業高校時代の恩師にあたる宮田隆弘会員,同級生の佐藤祥介会員が祝辞を述べられた。

乾杯の発声の音頭は,本会では村山顧問に次いで二番目の長老となる上森千秋会員によ

て行われた。

高知県橋梁会の玉井佐一会長による万歳三唱で祝賀会が開きになった後は,参加者の3分の1に当たる21名がスナック・カナカナに繰り出し,深夜近くまで語り合った。カナカナは,当会の創立当時から二次会に利用している馴染みの店である。

#### プラスワン 10 周年記念講演会

香川県技術士会の若手有志で構成されるプラスワンの第 10 周年記念講演会が,平成 17 年 6 月 10 日(土)13 時より高松市片原町の生涯学習センターであった。

プラスワンでは,(株)チェリーコンサルタントの本條忠應氏がリーダーになって,これまでに 50 回以上の例会,10 回の技術士受験セミナー,見学会などを積極的に開催されている。とても自由闊達な勉強会である。

プラスワンの活動記録を見ると,右城代表



前香川大学教育学部教授の小柳晴生先生による講演



懇親会で来賓の挨拶をする右城代表幹事

幹事は1999年3月と2000年3月の2回、技術士受験セミナーの講師として呼ばれている。

記念講演会は、鎌田香川県技術士会長挨拶で始まり、本條忠應代表による「ワイガヤ・トーク、プラスワンの歩みと未来」、香川大学工学部の野々村敦子助手による「土木分野への挑戦～GISとリモートセンシングを活用して～」、前・香川大学教育学部教授で臨床心理士である小柳晴生先生による「小さく生きる哲学～私たちはどのくらいの大きさで生き、どのくらいの早さで歩んだらいいのか～」の3つの講演があった。

講演会の後は、会場を「オークラホテル高松」に移して懇親会が行われた。懇親会は本條代表の挨拶、右城代表幹事による来賓祝辞があり、香川県技術士会の鎌田会長の乾杯で宴会が始まった。途中で合気道五段の免許を持つ藤原会員による演舞が披露された。



湯田温泉の足湯に浸かる明坂氏と右城氏



明坂氏と愛媛県技術士会の須賀副会長

#### 西日本技術士研究・業績発表年次大会

平成18年11月2日(木)、山口県健康づくりセンターにおいて、第12回西日本技術士研究・業績発表年次大会があった。高知県からは、大西一賢氏と右城猛氏が共著で「擁壁の動的相互作用を考慮した地震時土圧式」と題する論文を投稿していた。

大会には、右城代表幹事と明坂幹事の二人が参加し、右城幹事が口頭発表をした。夜は会場を湯田温泉の旅館「かめ福」に移し、17時より懇親会が開かれた。

#### 日本技術士会中四国支部総会

平成19年5月19日、11時より広島グランドインテリジェントホテルで幹事会があり、午後は通常総会、講演会、懇親会があった。

15時30分からの講演は「米国は今 - ベイエリア・シリコンバレーから - 」と題するもので、講師は生命科学の世界的権威者の室岡義勝先生。先生は大阪大学名誉教授で、現在は広島工業大学教授。昨年3月まで大阪大学海外拠点サンフランシスコオフィスの所長とサンフラン

シスコ・バイエリア日本大学間連携ネットワーク JUMBA の会長をされていた。

講演で興味を持った点をメモったので、それを下記に列挙する。

- ・スタンフォード大学は、鉄道技術者であったスタンフォードが資財を投げ売って1891年に設立した学校。最初は金持ちの子息が行く大学であったが、後の学長が西のハーバードにしようとノーベル賞を受賞した教授を多数招聘して自由に研究させたことで、優秀な学生が集まるようになった。
- ・スタンフォード大学の授業料は年間400万円と高い。生活費も含めると年間600から900万円の費用がかかっている。このため、学生は必死に勉強する。学生が真剣なので教授は手を抜けない。
- ・シリコンバレーでは、研究成果は秘密にせずにオープンにしている。毎週セミナーが開かれている。「情報を共有して競争しなければ成長しない」とする哲学がある。
- ・意外かも知れないが、彼らはメールをあまり使用しない。メールは1~2行の簡単な返事を伝える場合のみに使用している。電話はよく使う。常に電話で話をしている。対話を非常に重要視している。
- ・情報交換のためにランチ、パーティーがよく開催されている。ここで人物定めもしている。アメリカ人は同窓会、昔の職場仲間など人脈を非常に大切にす。
- ・個人情報オープンにしている。エリートクラスの人たちは全く気にしていない。
- ・日本では、日本の技術は世界トップクラスと思っているが、世界は日本の技術なしでも動く。後ろを走っていたはずの国が日本をどんどん追い越している。日本はもう世界から忘れられている。
- ・日本では、研究主任や課長の裁量権が少ない。良いアイデアがあっても、上に行くにしたがって熱意が消えてしまい、事業化されることがない。
- ・日本は、最近「物づくり」の技術を重要視



懇親会で記念撮影。右より右城、牧山、作道、栗本



懇親会で室岡義勝先生と話す右城代表幹事

しているが、アメリカはイノベーションに重点を置いている。「物づくり」は開発途上国がやるべきと割り切っている。

- ・日本の企業経営者は不勉強で尊大(うぬぼれ)。技術者は自信喪失し倫理観が欠如している。企業は技術者や研究者をもっと優遇する必要がある。
- ・日本の技術者は英語ができない。バイリンガルな人を活用する必要がある。

#### 四国技術士会

第10回四国技術士会は、高知県が担当の番であったので、高知県技術士会創立20周年記念式典と同じ平成18年11月22日にサンライズホテルで開催された。

会議では、日本技術士会中・四国支部から四国支部が分離独立した場合の課題、分離独立に向けての取り組みについて話し合った。



第 10 回四県技術士会の記念撮影



えひめ共済会館での会議の様相

第 11 回四県技術士会は、6 月 13 日(水)、13 時より「えひめ共済会館」で開催された。高知県からは、右城と明坂が出席した。

会議では、平成 21 年度の日本技術士会四国支部創立に向けて、組織や運営の方法などに関して具体的な議論が行われた。

会議の後は 15 時 30 分より全日空ホテルの屋上にあるルーフガーデンで懇親会が開かれた。

#### 日本技術士会中四国支部幹事会

平成 19 年 9 月 15 日(土)、15 時より宍道湖畔にある松江ニュー・アーバンホテル別館 2 階会議室で幹事会があった。高知からは右城代表幹事が出席した。

議題は、全国支部長会議報告、本部理事会議報告、平成 19 年度中四国支部の事業予定、技術士全国大会であった。

平成 20 年 10 月 18 日(土)には、松江市のホテル一畑とホテル白鳥を会場にして、第 35 回技術士全国大会が開催される予定である。交流パーティー、見学ルートなどについて話し合いが行われた。

今年の全国大会は北陸支部の担当で、10 月 17 日(水)に福井市で開催される。次回の開催支部にピーアールタイムとして 30 分が与えられることになっているので、鳥根県技術士会の渡部修会長が十八番の「安来節どじょう掬い踊り」を披露すること、宍道湖、出雲大社、隠岐の島、足立美術館、世界遺産石見银山遺跡など鳥根県の観光名所をパワーポイントで紹介すること、大会に出席する中四国支部の会員全員

が法被を着て壇上に上がることなどが申し合わされた。

#### 徳島県技術士会創立 40 周年記念行事

徳島県技術士会創立 40 周年記念式典が、10 月 13 日(土)に徳島市のホテルサンシャイン徳島アネックスで 56 名の参加者を集めて開催された。

来賓として、飯泉嘉門徳島県知事、近藤英樹日本技術士会理事、牧山昭彦中四国支部長、植田幸男事務局長、桜井博幸鳥取県技術士会会長、木口誠二岡山県技術士会副会長、武山正人香川県技術士会会長、須賀貢一愛媛県技術士会副会長、右城猛代表幹事が参列された。

高知県技術士会からは、右城代表幹事以外に山本克彦副代表幹事、関山雅彦会員、大西一賢会員も参加した。

式典には、木村章初代会長(93 歳)をはじめ歴代の会長が出席され、40 年の歴史の重みを感じさせられた。

式典に続き、日本システム開発株式会社の金岡秀司社長により、「コンピューターと私の人生・歳を重ねるのもわるくなし」と題した特別講演があった。



祝賀会で金岡講師と一緒に記念撮影  
右城代表幹事、加賀徳島県技術士会長、長尾県会議員  
神田徳島県技術士会名誉会員、金岡秀司社長

第 34 回技術士全国大会(北陸・福井)の開催  
全国から 500 名を超える会員が参加し、平成 19 年 10 月 16 日(水)～19 日(金)、福井県福井市フェニックスプラザで開催された。福井は、現在 NHK の連続テレビ小説「ちりとてちん」の舞台として、また、若狭塗箸や越前ががが有名で、自動車所有台数、社長輩出数、低い失業率などの人口に占める割合が全国第一位である。四国からの参加者は 5 名ほどで、高知県からは明坂幹事が参加した。



フェニックスプラザの玄関

第 1 日目は、青年技術士の集い、第 4 回技術者倫理研究事例発表会、第 3 回全国防災連絡会議、第二日目は、分科会、記念式典、記念講演、交流パーティーが開催された。分科会は、第 1 分科会 省エネルギーのこれから、第 2 分科会 健康長寿と環境のための新技術、第 3 分科会 大規模災害と危機管理、第 4 分科会 技術者倫理と継続研鑽、第 5 分科会 環日本海大交流を目指して、であった。記念式典は、来賓として渡海文部科学大臣、福井県知事のほか北陸農政局長、近畿整備局長、北陸整備局長が列席された。式典の中で行われた大会宣言は、次のとおり。

#### 第 34 回技術士全国大会(北陸)大会宣言

私たち技術士は、技術士法施行 50 年目を迎えるにあたり、歴史と自然に育まれた北陸・福井の地で、社会に対する責任の重大さを再認識するとともに技術の研鑽に努め、科学技術の発展による美しい地球の未来をめざして、

1. 地球規模の環境保全、豊かな自然環境の保全に配慮した活動を進めます。



2. 安全で安心できる暮らしの実現をめざした活動を進めます。
3. 産学官や地域間の交流・連携を高める活動を進めます。

以上、宣言します。

平成 19 年 10 月 17 日

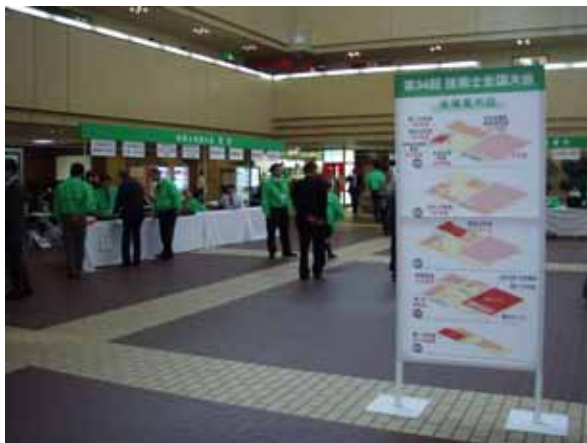
第 34 回技術士全国大会参加者一同

引き続き、前福井大学学長児嶋真平氏による記念講演「原子カルネッサンス時代を迎えて」が行われ、最後に次回担当の中・四国支部から、第 35 回全国大会について、島根県松江市で平成 20 年 10 月 17 日(金)～20 日(月)に開催されることが紹介された。中・四国支部では、多くの参加者を期待して今回初めて式典を土曜日に設定している。

第 3・4 日目は、パートナーツアーやテクニカルツアーが行われた。



式典の様子



受付ホール



ポスターセッション

中村和弘会員が土木学会より表彰される

高知県技術士会の設立当初からの会員で、幹事としてご尽力いただいている中村和弘会員が、土木学会四国支部より技術功労賞を授与された。

土木学会四国支部では、支部創立 10 周年の節目の年に当たる平成 17 年度より支部活動の活性化策の一つとして支部表彰規定が設けられ、初年度となる平成 17 年度に各県からそれぞれ 1 名が技術功労賞に選ばれた。

平成 18 年 5 月 12 日にホテルクレメント徳島で開催された土木学会四国支部平成 18 年度総会において、平成 17 年度の稲田善紀会長より賞状と記念品が受賞者に手渡された。



技術功労賞を受賞した中村和弘会員